

2160

45

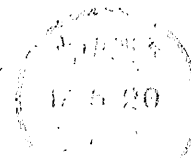
第六艦隊戰時日誌

第六艦隊司令部
旗艦香取部



第六艦隊機密第二三號
自昭和十七年二月一日
至昭和十七年二月二十八日

8
35



一 經過 目次

- (一) 一般情勢
 - (二) 敵軍ノ情勢
 - (三) 任務編制配備
 - (四) 作戰指導
- 二 人員

- (一) 司令部職員
- (二) 麾下總人員
- (三) 令達報告等
- (四) 參考

- (一) 麾下艦船ノ行動
- (二) 戰訓
- 五 作戰經過概要

自昭和十七年二月二十八日 第六艦隊戰時日誌

一 經過

(一) 一般情勢

(1) 米大平洋艦隊ハ其ノ後活動活潑ナラザルモ去月未敵
ノKdBヲ以テスル積極的活動ニ對シ警戒ヲ嚴ニシアリシ
所ニ二月一日敵ハ「マロシヤル」方面ヲ空襲シ来レリ
當隊「クエシエリン」在泊部隊ハGBgト協力全カヲ擧ゲテ之
ヲ撃退ス引續キ一部潜水艦ヲ以テ「ウオツジエ」附近海
面ヲ索敵更ニ布哇方面ニ掃航セシモ敵ヲ發見スルニ至
ラズ又一部潜水艦ヲ以テ右KdBノ布哇歸路ヲ邀撃セシ
ムル如ク行動セシメタルモ遂ニ敵ヲ捕捉スルニ至ラズ
(2) ISSB 及 3SSBノ各一部ハ布哇監視任務ヲ續行其ノ間伊九

(二)

潜ハ真珠港ノ飛行偵察一團ヲ實施ス
 (3) 35SB (イ68尺)ノ潜水艦ハ去月来 Midway Seattle Albatross 方面ニ各一ノニ隻宛
 分派要地ノ偵察攻撃ニ任ジツツアリ
 伊ニ五潜ハ濠洲新西蘭方面ニ分派サレ中旬ヨリ同方
 面要地偵察(攻撃)ヲ開始ス
 (4) 25SB ハ二月中旬以降南方部隊指揮官ノ指揮下ニ入り作戦中
 (5) 香取ハ開戦以來引續キ PQニ在泊 EBノ指揮通信中樞ニ任
 ジアリシガ麾下潜水艦ノ大部内地ヲ基地トシ整備並ニ
 訓練ニ従事スルコトナリシヲ以テ九日 PQ發十六日横須
 賀ニ歸港ス

敵軍ノ情勢

(1) 二月十五日新嘉坡ハ無條件降伏トナリ南方海面ニ於
 ケル米英蘭ノ聯合艦隊ヲ遂次海戦ニ勢カヲ漸減殆

(三) 任務編制配備

先		區	指 揮 官 兵 力 配 備 及 任 務
第一潜水部	第一潜水隊	分艦	
六	第一潜水隊司令官	直率	
第一潜水隊	第一潜水隊	香取	
115 119 126	125 濠洲新西蘭方面要地偵察(攻撃)	117 米西岸奇襲交通破壊要地軍事施設砲撃	19 123 布哇方面監視

ド壊滅ノ状態ニアリ
 在布哇米太平洋艦隊モ其ノ行動活潑ナラズ僅カ空母ヲ
 主体トスル(カB)ヲ布哇及我ガ南洋群島方面ニ機動セシ
 メタルニ過キス
 ②敵潜水艦ハ依然本邦近海内南洋方面ニ出没シ船舶
 ヲ目標トシテ攻撃シアルモ被害比較的僅少ナリ

隊		部		遣
補給部隊			部第三潜水隊	部第二潜水隊
官	長	令	司	艦
(各特務艦長 監督官)	直率		部第三潜水隊 戰隊司令官	部第二潜水隊 戰隊司令官
日立丸、 天洋丸	1sg 3sg 110 128		第三潜水隊 戰隊	第二潜水隊 戰隊
補給			20sg 中旬迄布哇方面監視 169 「ミッドウェー」方面偵察 11sg アリニューシマン方面要地偵察 18 中旬迄米西岸音襲交通破壊要地軍事施設砲撃	初旬横須賀ニテ整備十日以降南方部隊指揮官ノ指揮下ニ入り南方作戦ニ従事
	隱戸、東亜丸 富士丸、新玉丸			

(四)

記	事
<p>二月十日以降 2SS 富士丸 八南方部隊指揮官ノ指揮下ニ入り 南洋方面作戦ニ従事</p>	<p>二月二十四日 伊三七潜 編入 14sg (127 128) 編制 6F 附属トナル 二月二十七日 伊二九潜 14sg = 編入 二月二十八日 伊三〇潜 6F 附属トナル 一日 立丸 (6F 附属) IIAF 長官ノ指揮ヲ承ク 一 第二號 天洋丸 (6F 附属) 6F 長官指揮 一 工作艦 浦上丸 (6F 附属) EB = 附属中</p>

作戦指導

第一 敵機動部隊ニ對スル作戦

二月一日 敵機動部隊 来襲ノ際 ヲク エシエリン 在泊中ノ第一
 潜水部隊 (19 123 115 117 119 126) ヲシテ 當時 敵ハ、ウオツジエ 附近
 ニ在リトノ情報ニ基キ、同方面ニ向ヒ 索敵攻撃ヲ命ジ 同隊

ハ。六一。敵機撃退時迄錨泊沈坐中ナリシガ之ヲ浮上直ニ配備ニ就カシメ、ウオツジエ東方海面ヲ搜索セシモ敵情ヲ得ズ

二日。六一五更ニ布哇方面ニ向ヒ掃航スベク下令索敵セルモ其後敵情ニ関シ得ル處ナク依然追躡ヲ繼續スルハ他ノ作戦ニ影響アルヲ以テISSBニ對シテハ三日〇八〇〇ニ至ラバ左ノ如ク行動スベキヲ下令

(イ) 119 126ハ五日朝迄ニP2ニ歸投（ハ作戦準備ノ爲）

(ロ) 125ハ濠洲新西蘭指定地莫ノ偵察

(ハ) 爾餘ノ艦ハ現行動ヲ續行AH方面ニ達セバEB電令作策三六號ニ依リ行動セシム

但シ117 123中ノ一艦ニ命ジアリタルAG AE攻略資料ノ調査及同島ノ砲撃ヲ取止ム

一方 35SB ニ對シテハ左記下令

(1) 169 八四日中ニ敵情ヲ得ザレバ AF 方面任務ニ復歸シ十二日
現地發歸投スベシ

(2) 20^{3g} 八四日中ニ *Nikau* ノ西一八。埋ヨリ同點ノ南一四。埋ノ間ハ

散開線ニ就キ敵機動部隊ノ歸路ヲ邀撃特令ナケレ
バ九日歸途ニ就ケ途上一部潜水艦ヲシテ AG ノ攻略資
料ノ調査及同島ノ砲撃ヲ實施セシムベシ

三、斯クシテ敵機動部隊ニ對シテ索敵ヲ續行セシモ遂ニ發見
スルニ至ラス 19 117 123 ニ對シテハ二月九日以後既令 (EB 電令
作案 三九號) ニ依リ行動豫定ノ配備ニ向ハシム

三、二月八日 〇。〇。第六通信隊ヨリ敵機動部隊ノ電話ト推
定セラルル電波ノ測定方位ニ関スル情報アリ次デ同日二三。
AF 參謀長ヨリ右ニ對スル判断トシテ敵ハ概ネ六。〇。埋以内ト

認メラルルニ付「マーシャル」諸島方面防備部隊及所在航空部隊ハ警告戒ヲ嚴ニスルノ要アリトノ報ニ接ス
 當夜香取ニ於テモ「One O'clock South East」及「90° ahead」等ノ片言ヲ極メテ
 高怒度ニテ聽取セルヲ以テ明朝特ニ警告戒ヲ嚴ニスル要アルヲ認メ之ヲ「マーシャル」方面所在部隊ニ通報スルト共ニ
 警告戒ヲ嚴ニセリ
 翌九日敵襲ナカリシモ依然敵信狀況ヨリ敵ハ一部隊ヲ以テ尚「マーシャル」方面ニ機動スルヤノ疑ヒアリト認メ二月九日歸航ノ途ニ在ル16^{sg}及20^{sg}ヲ利用布哇諸島「マーシャル」中間海面ヲ11^{sg}ヲシテ *Abatement* ヨリ本州東方ニ至ル海面ヲモ索敵セシメタリ
 但シ本行動ニ於テモ何等敵情ニ関シ得ル所ナカリキ
 四 敵機動部隊「マーシャル」方面空襲ノ翌二日桑港放送局

ハ左ノ通之ガ發表ヲ行ヒタルガ之ヲ香取ニテ聴取セルヲ以テ關係各部ニ通知セリ

『米國海軍省發表ニ依ルニ米國軍艦及航空機ハ「マリーシャル及「ギルバート」諸島ニ於ケル敵ノ海軍根據地及飛行場五ヶ所ニ奇襲ヲ行ヒ敵ノ補助船舶數隻ヲ撃沈又ハ損害ヲ與ヘ敵ノ飛行機ヲ空中及地上ニ於テ破壊シ軍事施設ニ損害ヲ與ヘタリ是等ハ航空魚雷爆彈又ハ機銃ニ依リ行ハレタルモノナリ米國軍艦ニ隻ハ爆彈ニ依ル微少ノ損害ヲ受ケ飛行機十一機未歸還是等ノ諸島ハ米國ヨリ濠洲及蘭印ニ通ズル主要航路ニ在リ』

第三 至二月下旬 布哇方面ノ作戰

一 是日ニ一月中旬「レキシントン」ヲ含ム敵機動部隊搜索攻撃ノ爲「クエジエリン」基地ヲ發進セル 3SSB 中 20sq 以下旬ニ

十二日) 布哇方面ノ配備ニ就キ監視中ナリシガ 假ハ一月ニ
 十三日夜 *Nishu* 島ノ南方海面ニ於テ西航中ノ大型給油船
 一隻ヲ撃沈シ其ノ後同艦ハ二月三日黎明前 AZ 517 七〇
 湮ニ於テ南西方ニ高速飛行スル敵巡洋艦ヲシキモノ一
 隻ヲ認メタル外得ル處ナシ
 二 EB 電令作第 三六號ヲ以テ ^{20sg}ハ二月十一日眞珠湾監視配
 備ヲ撤スル様指令シアリタルモ二月一日敵機動部隊ヲマ
 ーシャル方面ノ空襲ヲ行ヒ之ガ歸途ヲ襲撃スベク前
 述ノ如ク四日ニ散開線ニ就カシメ九日歸途ニ就カシム
 三 仰(下) ^{20sg}ハ一月十五日布哇監視配備ニ進出ノ途上部下
 sgニ航路ニ関スル ^{20sg}司令ノ指令ヲ發電セル以後消息杜
 絶爾来遂ニ手掛リナク一月二十七日附沈没ト認定スルニ
 至レリ

四、19 123 ハ 20^{sg}ニ代リ布陸方面ノ監視ニ任シ續イテト作戰（
 後述）ノ所定任務ヲ續行此ノ間19ハ真珠港ノ飛行偵
 察ヲ行ヒ左ノ報告ヲナセリ

19 *Niikaw* 島西側ニテ飛行機發進一六四〇真珠港偵察ヲ實
 施セリ

19 真珠港南側ヨリ進入ノ際「ヒツカム」飛行場東端上空
 ニ於テ *Fort Weaver* ヨリ照射ヲ受ク（當時高度一三〇〇米）
 又附近燈火ニ依リ眩惑及月明ノ関係上港内左泊艦ヲ
 確認スルニ至ラス

19 敵ノ照射ハ迅速ニテ二回目確實ニ實施サレタリ
 19 南海岸三箇所燈火ヲ認ム海軍工廠面作業燈アリ
 約二〇哩ヨリ視認シ得
Barbers Pt 及 *Ford Weaver* 間ニ三箇ノ顯著ナル燈火アリ *Ford* 島ハ周邊ニ

中に他の大規模なスポーツ行事
 を開くことを禁じている。日本
 た。と、眠いて、闇の中を走り出し
 その焚火の周りに、酔いつぶれ
 てゐる者があつた。

燈火點在シ略其ノ輪廓ヲ認ム

其他各島嶼燈火管制シ在リ

(二)本日附近快晴風向四。度風速一ニ米波高一米

ヨリ *Oahu* ニ。埋沖迄密雲多ク雲高八〇〇米 *Oahu* 島上空及附 *Kawai*

近快晴

ハ飛行機收容ノ際翼破損使用不可能ナリ

五(23)ハ二月二十四日二三三〇六通ヨリノ最近電全部了解セ

ル旨ノ事務信ヲ發シタル以後無線連絡杜絶シアリ従来

ノ經過ニ徴シ沈没セル疑極メテ濃厚ナリ

第三要地ノ偵察並ニ攻撃

曩二月八日EB電令作第三六號ヲ以テ *3SSB* (168尺)ノ潜水艦ニ對

シテ *Mindanao* 方面ニ一隻 *Seattle* 方面一隻 *Albatross* 方面ニ一隻ヲ配スル如ク

指令更ニ一月二十七日EB電令作第三六號ヲ以テ *125*ニ對シ二月

二日以後準備出来次第「ク」エンジニアの基地發濠洲新西蘭方面ニ行動シ要地

- (1) Wellington
 - (2) Sydney
 - (3) Melbourne
 - (4) Auckland
 - (5) Hobart
- 、隱密偵察並ニ有力艦船ニ對ス

ル奇襲ニ任ズル如ク指令シアリタル處 A 西岸ノ外各方面共支障ナク順當ニ實施セラレタリ

169 一月下旬以降 監視偵察哨戒ニ任ジ二月九日及十一日陸

上軍事施設ノ砲撃ヲ實施シ爾後敗ニ向ケ歸途ニ就ケリ

二 Seattle San Francisco 方面

一月二十一日 EB 電令作案三四號ヲ以テ左記發令

18 AKノ飛行偵察ヲ取止メ A 西岸ニ直航桑港ノ飛行偵察ヲ實施シタル上豫定ノ如ク行動概ネ三月二日横須賀

ニ歸着スベシ

右ニ基キ18 (SS司令官旗艦)ハ二月上旬A西岸 *San Francisco* ヨリ

*Shuttle*ニ至ル海面ニ行動 *San Francisco*ノ飛行偵察ヲ企圖セルモ海上連

續荒模様ニテ飛行機ノ發進作業ニ適セス之ヲ實施スルニ

至ラス

*San Francisco*ハ燈火管制ヲ實施シアラスニ月三日 *San Francisco*沖ニテ同港ニ向フ輸

送船隊(駆逐艦三輪送船七)ヲ發見セルモ攻撃ノ機會ヲ得ズ

同港ノニ五〇度三〇哩附近ニ敵哨戒機及警戒艇ヲ認メタル

外本行動中敵影ヲ見ズ九日A西岸發歸途ニ就ケリ

三. *Abutian* 方面

11sg *Abutian*ハ一月下旬ヨリ二月上旬迄 *Abutian* 方面要地偵察並ニ哨戒ニ

當リタルガ一月二十九日 *Krimak* 島ノ南方ニテ敵大型潜水艦

一隻ヲ認メタル外敵ヲ見ズ

敵警戒状況無線傍受等ヲ綜合シ同方面ニ敵有力部隊存在ノ徴候ヲ認めズ

四、濠洲新西蘭方面

二月一日、マーシャル方面ニ未襲セル敵機動部隊ニ對シ既述ノ通 ISsB ヲ出撃セシメタルモ 125ハ濠洲新西蘭方面ノ偵察ノ爲二月八日以後索敵ヲ打切り本任務ニ復セシム
125ハ當時搭載機ヲ「クエニリン」十九空ニ残シ急遽出動セル關係上之ヲ容收ノ上作戰地發航左ノ通飛行偵察ヲ行ヒタリ

- イ) 二月十七日。四〇〇 Sydney
- ロ) 二月二十六日。五〇〇 Melbourne
- ハ) 三月一日晝間 Lauder Hobart
- ニ) 三月七日 Welling-ton

(ホ)三月十三日

Huskland

而シテ右偵察ハ何レモ成功シ重要ナル敵情資料ヲ報告セリ但シ敵艦航空母艦ノ在泊シアルヲ認メズ

第四 K 作戦

潜水艦ヲ以テスル對飛行艇燃料補給ニ依リ飛行艇ノ航續カヲ延長シ遠距離ノ攻撃偵察ノ實施ニ就テハ豫テ中央及GF司令部ニ於テ計畫アリタル處二月上旬之ガ實施ニ適スルニ式飛行艇ノ一部完成ヲ見^{24sf}ニ機配屬セシメラルルコトナリ三月上旬實施ヲ日途トシ一月中旬以末之ガ準備ニ着手シ三月四日第一回ノ攻撃ヲ實施セリ之ガ主ナル經過左ノ通
の作戦準備

(一)當隊戦闘詳報第一號所載ノ通中央GF司令部トノ

折衝アリ二月一日「マシヤル」方面ニ未襲セル敵機動部隊ヲ索敵中ナリシ115119126(始メ125ノ豫定ナリシモ飛行機ヲ搭載セザル126ニ変更)ハ三日。八。〇。反轉PQニ歸投セシメ爾後同地ニ於テ派遣工員ノ手ニ依リ航空燃料搭載工事ヲ促進二月十四日之ヲ完了セリ

(二)之ヨリ先本作戦ハ6F4Fノ協同作戦トナル關係上作戦計畫ノ打合セヲ行フ要アリ豫テ4F^{24sf}關係幕僚ノ參集ヲ求メアリタルガ八日PQ奪取ニ於テ之ガ打合セヲ了シ6F4F兩司令部ノ作戦協定ヲ作製セリ

(三)斯クテ二月上旬ニ式大艇PX方面移動時及未着(二十九日PQ着)後補給潜水艦トノ間ニ聯合ノ訓練ヲ實施シ概ネ不安ナキ程度ニ到達セリ

(四)補給地タル「フレンチフリゲート」ノ偵察ニ関シテハ389司令

所報(偵察)ノ通ニシテ補給可能ナリト認メアリ
 (四) 作戰實施經過

4F司令長官ハ十七日ニニ。南洋部隊電令作第九一號ヲ以テ攻撃計畫ヲ發令第一攻撃期日ヲ三月二日第二攻撃期日ヲ特令ナケレバ三月七日ト豫定シアリタル處偶々二月二十日「ラホール」ノ北東六〇〇哩附近ニ有カナル敵機動部隊ヲ發見 2sg (114) 及 126 ハ二十日一五〇〇 PG 出撃此ノ敵ニ向ヒ散開線ヲ以テ掃航ス 依テ同日一八三〇同部隊ニ對シク作戰ノ豫定ニ不拘極力當面ノ敵ヲ撃滅スルニ努ムベキヲ發令セリ 然ルニ其ノ後敵情ニ関シ何等得ル處ナク翌二十一日 ISS 司令官ヨリ 115 116 126 ハ速ニ布哇諸島方面ニ進出セシメラルルヲ可ト認ムル旨意見具申アリ 同日夜半敵ガ「マーシャル」諸島ヲ南西方

ヨリ奇襲ヲ企圖スルコトアルベキニ備ヘ之ニ應ズル如キ配備
ヲ令シタルモ之亦何等得ル處ナク二十一日一五三〇ニ至リ
PYノ南方ヲ經テPX東方海面ヲ搜索シツク作戰ノ豫
定ニ應ズル如ク行動スベキヲ發令セリ

斯クテ三月二日(P日)ノ攻撃ハ實施困難トナリ三月四日實
施スルコトナリ夫夫配備ニ就ケリ

右實施ハ計畫通概ニ順調ニ經過シ先ヅ當夜奇襲
成功ノ電報ヲ接受六日ニ至リ更ニ海空司令ヨリ詳報ニ
接セリ

但シ之が成果ニ関シテハ確實ナル資料ナキモ外國側ノ放
送ニ依リ爆彈ハ海兵隊兵舎附近ニ命中死傷者約
一〇名ヲ生ジタリト

第一回ノ襲撃ニ於テ飛行艇一機(三號艇)「フレンチフリゲート」

ニテ再底ニ破ロヲ生シ之ガ修理ト次回攻撃時機ノ月齡
等ノ關係上ニ次攻撃ハ取止メノコトナレリ

第五 米西岸ニ於ケル要地攻撃交通破壊

曩ニ仰ヲシテ米西岸ニ派遣奇襲交通破壊並ニ指揮官
ノ所信ニ依リ要地軍事施設ノ砲撃ヲ命ジアリタル處二月
下旬米西岸着三月上旬同地發歸途ニ就ケリ此ノ間ニ
擧ケタル戦果並ニ敵ノ警戒狀況等ニ就キ左ノ通報告シ
末レリ

一 戦果

① 二月二十四日一〇〇 Elwood 油田軍事施設ヲ砲撃相當ノ効

果アリシモノト認ム

② 三月一日一四〇〇 桑港沖ニ於テ給油船(約一万噸)撃沈

③ 三月二日 ^{Mentawai} 甲沖ニ於テ貨物船(約七〇〇噸)一隻ヲ撃沈ス

ニ敬言戒状況

の沿岸三〇。埋以上哨戒機ヲ認メズ

の晝間飛行機飛行船ニ依ル沿岸警戒嚴重ナリ

の飛行機飛行船ヲ伴フ四船ヲシキモノニ會セシコトアリ

の夜間沿岸四。埋附近ヲ警戒艇(約三。噸)ノ移動哨

戒セルニ會フ(三回)視認困難ナリ

の月夜ト雖モ夜間飛行哨戒ヲ行ハズ

の桑港ヲ出入スルモノ以外沿岸航路上大型汽船ヲ認

ムルコト稀ナリ

の主要燈台ハ南方諸島ノ外消燈シアラズ

の電波發射ノ翌日哨戒艇ノ追跡ヲ受ケタル疑アリ(

三回)

三天候不良ノ場合風速一五米波浪六長浪ニ乃至五南

風ハ必ズ濛氣ヲ伴フ
 四三月十二日一二三〇。桑港沖發横須賀ニ向フ燃料保有
 量三五〇噸

第六 旗艦香取ノ行動

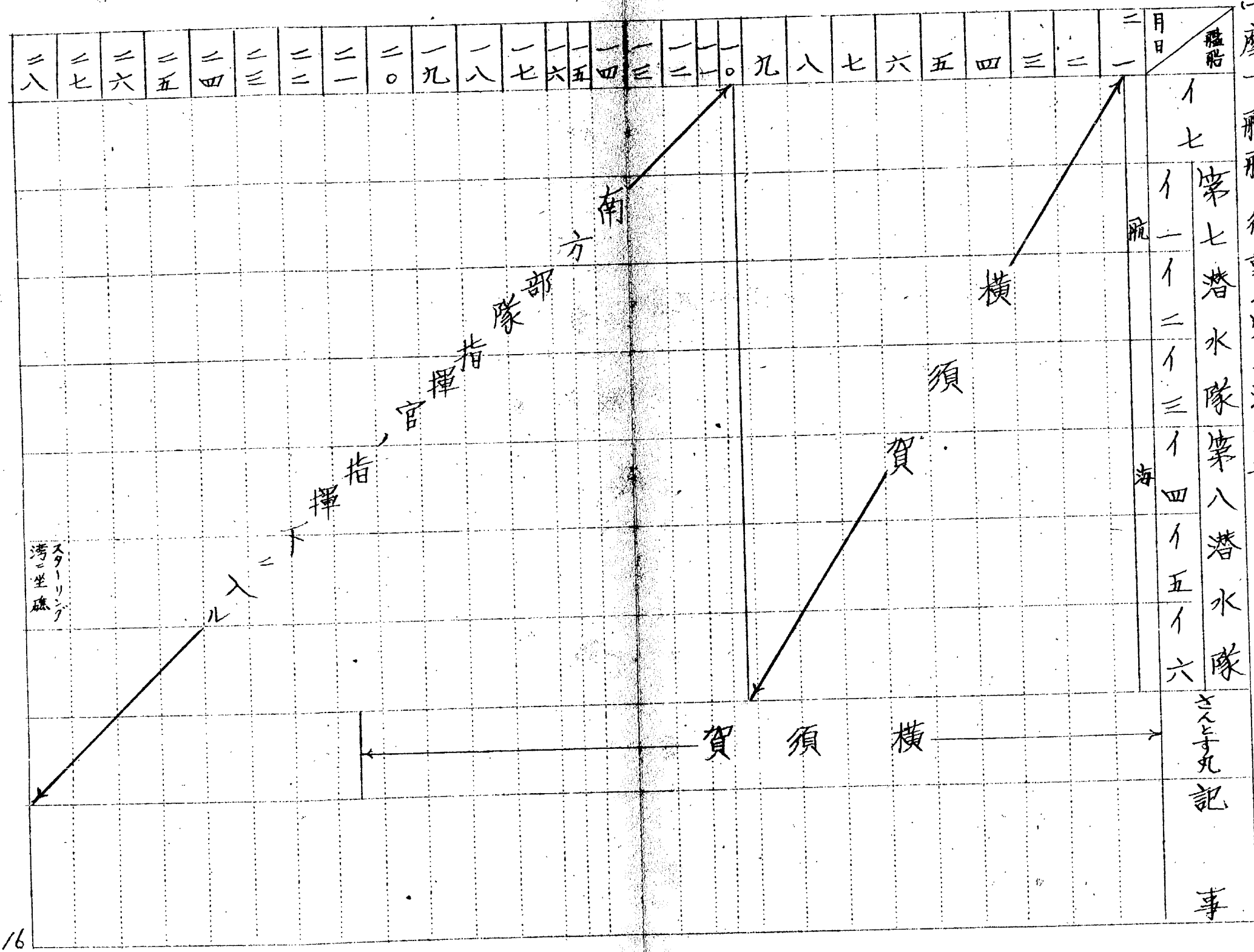
開戦以來引續キ段ニ在泊麾下EBノ指揮通信中継ニ
 任シアリタルガ大部ノ潜水艦内地ヲ基地トシテ主トシテ
 整備並ニ訓練ニ従事スルコトナリ依テ二月八日先遣部
 隊ノ通信ハ第六通信隊香取ニ代リ之ヲ實施スルコト
 シ同九日發十六日横須賀ニ歸港二月一日敵空襲ニ
 依ル被害箇所ノ修理次回出勤準備ヲ行ヒツツ作戦部
 隊ノ指揮ニ任ゼリ

二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月日 艦船
賀						須				横																		香取
																												隱戸
																												新玉丸
																												日立丸
																												東亞丸
																												富士丸
																												第二龍丸
																												天洋丸
																												浦上丸
																												記
																												事

四参考
 一 麾下艦船ノ行動（香取及補給部隊）

ノ承ヲ揮指ノ官長令司隊艦空航一十第

ノ承ヲ揮指ノ官揮指隊部才南



(一) 麾下艦船、行動(第二潜水部隊)

二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月日	艦名
海航										ミエリン		戦作岸西國米										イ	イ八	第十一潜水隊					
賀										横		察偵面方ニヤシーユリア										イ	イ七	第十二潜水隊					
海航										ミエリン		戦作面方イエウドツミ										イ	イ六	第二十潜水隊					
海航										クエジエリン		戦作面方哇布										イ	イ七	第二潜水隊					
海航												ンリエジエク										イ	イ九	靖国丸記					
																												事	

(一) 麾下艦船ノ行動 (第三潜水部隊)

17



第六艦隊機密第二三號ノ二六

昭和十七年二月五日

先遣部隊（「クエジェリン」在泊部隊）戦闘詳報 第三號

自昭和十七年二月一日〇三五一
至昭和十七年二月一日〇六一〇 二於ケル對空戦闘

第六艦隊司令部



先遣部隊戦闘詳報 第三號

自昭和十七年二月一日〇三五一
至昭和十七年二月一日〇六一〇 二五九「クエジエリン」第六艦隊在泊部隊對空戰鬥

一、形勢

當隊潛水艦ハ一月八日及十二日布哇南西海域ニ於テ敵空母（ラング
レー及レキシントン）ヲ發見之ヲ攻撃襲沈セルモ尙敵ハ空母ヲ其餘
トスル部隊ヲ以テ「マーシャル」方面ヲ奇襲スルコトアルベキヲ豫
期シ當隊「クエジエリン」在泊部隊ハ對潛對空警戒ヲ嚴ニシアリシ
所二月一日黎明突如トシテ在泊艦船ハ敵機ノ「クエジエリン」本島
ヲ襲撃セルヲ發見ス

二、艦隊更領

(イ) 「クエジエリン」泊地在泊部隊

- | | | | | | | |
|--------|-----|-----|-----|-----|-------|---|
| 伊九 | 伊一五 | 伊一七 | 伊一九 | 伊二三 | 伊二五 | 伊 |
| 取(口6F) | 平安丸 | 靖國丸 | 東亞丸 | 新玉丸 | 第二天洋丸 | |

0947

二六潜水艦

他ニ常 艦、鳴 戸、第二あまかす丸

(ロ)「クエジエリン」在泊部隊ノ對空戦闘計畫

(ハ)碇泊隊形軍艦潜水艦共ニ開距離五〇〇米トシ艦隊泊地ノ外側北
至約五軒ニ哨艦トシテ第二天洋丸、哨艦トシテ軍艦ヨリ内火艦
一ヲ派遣警戒セシム

(ニ)作戦地ヨリ艦隊整備伏羲着中ノ潜水艦ノ機銃及高角砲ノ使田及敵
機來襲ノ際ノ沈没又ハ捨銃出港潜航避退(基準針略概ネ三〇五
度遠力三節)ニ關シ豫メ定ム

(三)敵機來襲ニ對スル陸上見張機關及各艦船ヨリノ警報傳達ニ關シ
第六海境地隊ト協定ノ上定ム

尙悉取ヨリ禮砲(短五徑砲)一門ヲ防備隊前庭海崖ニ陸揚シ警
報傳達ニ便ニス

三對空戰圖經過

天候 曇、最高三〇〇〇米、斷雲アリ、風向 北西、
 風速六米、重量 八、日出〇四一〇、視界一〇杆、

3

時刻	要
〇三五— 自〇四〇〇 至〇四二五	敵機二機ノ「クエジエリン」本島來襲發見 「對空戰圖」十二節即時待機「沈 廢」(潜水艇)下令 一 停降泊地ニ約九機ノ爆撃機來襲三機又ハ二機編隊ニテ 高度二〇〇〇米乃至二五〇〇米ニテ香取、常陸、平安 丸、靖國丸ニ對シ異方向ヨリ進入スル逐次攻撃ヲ實施 ス 二 各機ハ對空砲火ノ全力ヲ盡ゲテ敵機ヲ撃墜ス
自〇四一八 至〇四五五	一 敵爆撃機六機編隊ノモ、計一八機來襲香取、常陸、平 安丸、靖國丸、潜水艇等ニ對シ高度三〇〇〇米附近三 機乃至六機ニテ一列ノ編隊進備隊形ヲ作りタル後隊下

自 〇〇六〇〇 至 〇〇六一〇	〇五〇〇	〇四三六	
九機ヲ發見ス	在泊1SsBニ對シ直ニ出動敵來襲部隊ヲ攻撃スベキヲ命ズ	奪取捨鐵出港ヲナス	<p>開始、始行運動ニテ砲火ヲ回避シツツ約一五〇〇米附近迄 第一段降下爾後七〇度附近ニテ急降下五〇〇〇米附近ニテ爆 彈(二五〇砵ト推定)一發ヲ投下ス</p> <p>二本急降下爆撃中對空兵裝着ヲナル靖國丸、平安丸、東西丸 及鐵地北方二〇軒ニ分離ナル新玉丸ニ對シ先ノ水平爆撃機 降下低高度(七〇〇米乃至五〇〇米)爆撃ヲ實施ス</p> <p>各艦ハ對空砲火ノ全力ヲ擧ゲテ敵機ヲ撃墜ス</p> <p>四 潜水艇ハ沈没セリ</p> <p>五 東亞丸、新玉丸ハ機銃ノ裝備ナク小銃並ニ主砲(八連水平 砲)ヲ使用對空戰闘ヲ實施セリ</p>

4

<p>〇六二五</p>	<p>二三機宛ニ分レ各機ニ香取、靖國丸、東亞丸ニ襲撃ス 三香取ハ約十四節ニテ航行單機回避靖國丸ハ近傍附近ニテ機 材ヲ使用回頭回避ヲ實施セリ 四香取機ニ對シテハ高角砲機銃ノ外香取主砲十四連砲二號浦 管砲一四發、平安丸十五連砲一三發、靖國丸十五連砲一二 發、新玉丸、東亞丸各主砲（八連）ノ平射砲ヲ使用、新玉丸 ハ敵香取機一ヲ撃墜セリ 五香取機魚雷發射後機銃掃射ヲ受ケタルモ被害僅少ナリ</p>
<p>〇七〇〇</p>	<p>伊二五、伊二六逐次ニ出動「クエジエリン」東方ヨリ「ウオ ッジエ」ニ向ヒ掃射進撃敵機動部隊ノ攻撃ニ向フ</p>

武
功
部



第六艦隊戰時日誌

第六艦隊機密第三號ノ五
自昭和十七年三月一日
至昭和十七年三月三十日

第六艦隊司令部
旗艦香取

7
55



一、經 過 目 次

- 一 一般情勢
- 二 敵軍情勢
- 三 任務編制配備
- 四 作戰指導
- 二 人員
 - 一 司令部職員
 - 二 麾下總人員
- 三 令 達 報 告 等
- 四 參 考
 - 一 麾下艦船行動
 - 二 戰 訓
 - 三 戰 寫 真
- 五 作戰經過概要

(終)

一 經 過

(一) 一般情勢

(1) 敵情 活動

三月四日 航空母艦一大巡ニヲ基幹トスル敵情南

鳥島ニ未龍衣ス其ノ後敵ノ通信其他ノ情況ヲ綜

合スルニ敵ハ内南洋方面ニ活動スルト共ニ東京又

ハ父島方面ノ奇龍衣ヲ企圖シツツアル算大ナルヲ以テ英

在泊中ノ偵察機(145)司令指揮)ヲ出動ス作戦地ヨ

リ歸途ニアリタル偵察機(115)司令官指揮)及一時指

揮下ニ入リタル偵察機ヲ加ヘ十三日以降東京湾東方洋

上ノ搜索ヲ哨戒ニ任ゼシメタルモ敵情ニ関シ得ル所

ナク各隊十七日及十八日現地發飯投ス

(2) 作戦

去月未準備中ナリシト作戰ハ三月四日豫定ノ如ク
フレンチフリゲートヨールニテ飛行艇ニ補給ヲ實施シ任
務ヲ終了ス

参加艦ハ(無線誘導) 115 119 126 (補給)

要地偵察
去月未濠洲新西蘭方面ニ派遣要地偵察ノ實
施中ハ必替ハ三月八日 Wellington 十五日 Auckland 十九日

又A西岸行動中ナリハ替ハ三月一日夜桑港沖ニ

於テ大型給油船一隻同二日夜 C. Melodius 沖ニ於テ
大型貨物船一ヲ撃沈スルト共ニ偵察ニ從事同十五日

桑港沖発横須賀ニ向ケ飯途ニ就ク

(三) 其他

18s 三月下旬横須賀ニ返着整備補給訓練ニ従
事中

25s 南方部隊指揮官、指揮下ニ入り南方海域ニ於
テ作戦ニ従事中

35s 吳及横須賀ニ於テ整備補給訓練ニ従事中

85s 三月十日編制當隊ニ編入セラレ吳及内海西部
ニ於テ整備補給訓練ニ従事中

敵軍情勢

我 占領地域方面ノ敵海上兵力ハ潰滅セルモ濠洲
新西蘭印度洋方面ニ南敵ハ有力ナル艦船部
隊存在スルモノ如ク又英米ノ海上交通ハ米洲大陸
リ濠洲方面ニ至ルモノ南阿ヲ迂回シテ印度又ハ濠洲
達スルモノ相當活潑ニ行ハ陸兵、軍需品ノ輸送頻ニ

敏示ニシテ敵ハ頗勢轆回ノ地歩ヲ策スルト共ニ一方布
 哇及南方海域ヲ基地トシ機動ヲ以テ頻リニ我虚ヲ
 ヲ窺ヒツツアリ

部		遣		先	區	(一) 軍隊區分 (二) 任務編制 (三) 配備 及任務配備 (三月一日)
	第三潜水部隊		第一潜水部隊	旗艦	分	
司	隊	艦	六	第	指	
直率	第三潜水戰隊司令官		第一潜水戰隊司令官	直率	官	
157 357 1457 110 430	第三潜水戰隊		第一潜水戰隊	香取	兵力	
練ニ從事中 吳及内海西部ニ於テ補給訓練	補給訓練ニ從事中 吳及横須賀ニテ整備	何モ三月下旬ニ於テ既着 17A 西岸作戰ニ從事 道ニ任ズ	19115 119126 三月四日ト作戰(AFHニテ) 飛行艇ニ燃料補給作(無線誘)		任	配 備

事 記	隊
<p>一 第二潜水戦隊 富士丸、南方部隊指揮官指揮下アリ</p> <p>一 三月十日 139 354 174 (130 7 145 加)</p> <p>一 制第八潜水部隊ト呼稱シ、吳及内海西部ニ於テ整備</p> <p>一 補給訓練ニ従事ス</p> <p>一 二十日 千代日、日進、愛國丸、報國丸ヲ一特即ニ編入セラル</p>	<p>補給部隊</p> <p>官 長 令</p> <p>各特務艦長 (監督官)</p> <p>隱 戸 東 亜 丸 新 玉 丸 浦 上 丸 第 天 洋 丸</p> <p>隱 戸 初 旬 吳 中 旬 以 降 行 補 給</p> <p>日 立 丸 師 長 官 指 揮 下 ニ ア リ</p> <p>富 士 丸 南 方 部 隊 指 揮 官 指 揮 下 ニ ア リ</p> <p>第 天 洋 丸 南 方 面 於 テ 横 鎮 補 給</p> <p>浦 上 丸 下 旬 迄 限 工 作 任 務</p>

3SS	2SS	1SS	直率	戦艦隊	艦隊編制(三月一日)
靖國丸	元寺丸	平安丸	-	香取	
115g	75g	25g	15g	隊名	
1 1 七 七 五 四	1 1 1 三 二 一	1 1 1 九 七 五	1 1 1 二 一 一 〇 八 六	艦名	
125g	85g	45g	35g	隊名	
1 1 六 六 九 六	1 1 1 六 五 四	1 1 1 二 二 二 六 五 三	1 1 1 二 二 二 四 二 一	艦名	
205g			145g	隊名	
1 1 1 七 七 七 三 二 一	1 七	1 九	1 1 1 二 二 二 九 八 七	艦名	
				隊名	
1 八			1 1 三 一 〇 〇	艦名	

事記	第六補欠班	附屬				
		給油	給兵	給油	給糧	工作
<p>一十日 第三四海軍軍用郵便所ヲ香取ニ置ク</p> <p>一十一日 第十(馬真班員(6F)香取ニ乗艦</p> <p>一十五日 伊七三潜水艦ヲ除カル</p> <p>一十七日 第五補充班ヲ日枝丸ニ置ク</p> <p>一二十日 2089 解隊 1289 = 171 172 ヲ加フ</p>	<p>准一、下七共 27 准二、下七共ニ 21 准一、下六共 26 下六共 5 11</p> <p>第一補充班(平安丸)</p> <p>第二補充班(信濃丸)</p> <p>第三補充班(清國丸)</p> <p>第四補充班(香取)</p>	<p>日三丸 118F 長官ノ指揮下ニリ</p> <p>富士丸 南方部隊指揮官ノ指揮下ニリ</p> <p>6F 附屬 6F 指揮</p>	<p>新立丸</p> <p>東亞丸</p> <p>富士丸</p> <p>栗丸</p> <p>洋丸</p>	<p>新立丸</p> <p>東亞丸</p> <p>富士丸</p> <p>栗丸</p> <p>洋丸</p>	<p>新立丸</p> <p>東亞丸</p> <p>富士丸</p> <p>栗丸</p> <p>洋丸</p>	

四) 作戰指導

自三月十一日
至三月十七日 間無線謀報現
レタル敵機動部隊
對ル作戰

(1) 形勢

二) 一般情勢

三月三日敵機動部隊
南鳥島ヲ空襲ニ爾後
附近所在部隊ヲ以テ極力
搜索ニ努メタルモ遂ニ敵情
ヲ得ズ

然ル三月十日000通信部隊
指揮官ヨリ敵機動部隊
ヲレキモノ十日一八三〇ノ
位置北緯八度東經一六四
度(誤差稍アル見込)ト、
無線方位ニ依ル情報アリ之ニ
引續キ昨長官ハ十日一三四〇ニ至リ
對米艦隊作戰第三法攻撃目標
十日大鳥島ノ北

方ニ出現セシ敵機動部隊ヲ殺シテ敵機動
 部隊ノ東京ハ笠原方面未襲ニ備ルトセリ
 尚在外荒二月一日ヨリニアル方面二月四日大鳥島
 三月三日南鳥島ト順次空襲シ来レル事實ニ徴シテ日
 頃ノ情况ハ或ハ小笠原若クハ本邦迄空襲ノ鋒先ヲ
 進ルヤノ疑濃厚ナルヲ感シツル情况ニ在リタリ
 先遣部隊ノ情况
 (1) 153 (117 125 欠) ト作戰終了後二日南鳥島ヲ空襲セル敵
 機動部隊ヲ捜索シツ横須賀ニ向ケ帰投ノ途
 上ニ在リ
 (2) 253 ハ南方部隊ニ編入表南洋方面ニ作戰中
 (3) 353 ハ吳(一部横須賀)ニ在リテ修理並ニ整備作業中
 (4) 三月十日附雷艦隊ニ編入セラレタル 853 ハ吳ニ於テ整備作

(四)経過

業中ナル處一部至急出勤得ル情況ニ在リ

三月十日二二〇〇時長官ヨリ609ヲ作戦ニ關シ一時先遣

部隊指揮官ノ指揮下ニ入ル旨發令セラル(三日〇時接收)

從テ當時敵機動部隊ニ對シ作戰行動ヲ執リ得ル

兵力ハIS(117名)一部及609ナリ

三月十日CB指揮官ヨリ敵機動部隊ヲキモ無線

謀報ヲ得ルヤ前記ノ通對米艦隊作戰第三法

ノ発令アリタリ

依テ十日一八三〇時機密第一四八番電ヲ以テ左記發令

電令作第四二號発令指揮官宛 IS司令官

(通報 IS司令官 609各長官 總長 603指揮官 609司令官)

敵ノ通信其他諸情況ヲ綜合スルニ敵機動部隊ノ内

南洋方面ニ策動スルト共ニ東京又ハ父島方面ノ奇襲

ヲ企圖シツアルノ算大ナリ

司令官ハ何処何処(司令官ヲ指揮セム)ヲシテ準備

出来次第出撃手セシメ概不左ノ配備ニ依リ東京方

面ニ対スル敵ノ出現ニ備フベシ

大吠崎ノ東方300哩附近ヨリ東方ニ掃航概不問セヨ

運附近ニ於テ哨戒

本部隊ノ通信ニ関シ左ノ通定ム

使用電波五六三五kc(タン五)香取中樞航空機通信

夕ヒ六搭載艦塔當

本部隊ノ呼出符號メス五印特殊交信略符ツト

トス

其ノ後俾六潜水隊(潜校練習潜水隊)ハ十日ニ至ル

9H 電令作第 九ニ號ヲ以テ 一時 印 指揮官ノ 指揮下ニ
 入レシメラレ 全潜水部隊ヲ 統一指揮スルニトナリ
 十三日 〇九 〇〇 左ノ通 及 發令

EB 電令作第 四七號 (印 機密 第六四番電)

(1) 各隊 左ノ 散開線ニ於テ 哨戒セヨ

01 116 121 129 130 (148) 司令 指揮 (ハ 地 矣 ワ子 三 00 ヲリ 地 矣 カ 台

00 至ル 線ヲ 終テ 地 矣 ラモヨ 00 ヲリ 地 矣 ワ ンヲ 00 ニ 至ル

線 (L 散開線) ニ 就ケ

(2) 119 115 119 126 ハ 地 矣 カレル 00 ヲリ 地 矣 ヲ ナ 00 ニ 至ル 線 (M

散開線) ニ 達セバ 止レ

(3) 659 ハ 地 矣 ワ 子 一 00 ヲリ 地 矣 カ ノ ニ 00 ニ 至ル 線 (N 散開線

ニ 就ケ

(4) 右 部隊ヲ 哨戒 潜水 部隊 (呼出符號 トア「ヤカ六」)

ト呼稱ス

ISs司令官之ヲ指揮スベシ

斯ウシテ極力敵機動部隊ノ搜索ニ努メタルモ遂ニ敵情ニ関シ得ル處ナク十六日一五〇〇左記ヲ令ス

完哨戒潜水部隊 通報 甲SF横領各長官 乙指揮官 總長

發 乙指揮官

乙電令作第四八號

敵情ヲ得サレハ哨戒潜水部隊ハ指揮官所定ニ依リ敵潜水艦ヲ掃サ場ニツク

散用線發 吳ニ付 119 126 及 65 日 0600M 及

右行動中亦何等敵情ヲ得ズ各隊所定軍港ニ歸投中

大日一八〇 甲長官ヨリ對水作戰第三法止メ哨戒部

署ニ就ケラシメ發令セラル

署ニ就ケラシメ發令セラル

二人員

司令部職員

准士官以上

同	同	參謀	主計長	軍醫長	機關長	參謀長	司令長官	職	主務	官	氏名	記事
水雷砲術	機關	首席										
海軍少佐	海軍機關中佐	海軍中佐	海軍主計大佐	海軍醫長	海軍機關大佐	海軍大佐	司令	海軍中將				
泉	伊藤	松村	小林	板倉	西澤	三戸	候小松	清水				
雅爾	喜六	翠	壽一	駿	兄信	壽	輝久	光美				
補第3海軍隊 參謀官 佐官在任							同日着任	青1百補軍令 部出仕 十六官在任				

三	三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	一〇	九	八	七	六	五	四	三	二	一	月 日
		呉			部	西	海	内	航	海	呉	航	海													賀	須	横			香 取
								ク	ツ	ラ	ト																				隠 戸
																															新 三 丸
																															日 立 丸
																															東 西 丸
																															富 士 丸
																															天 洋 丸
																															第 一 丸
																															浦 上 丸
																															子 代 田
																															日 進
																															愛 國 丸
																															報 國 丸

四
参
考
考
(一) 摩下艦船、行動(香取其他)

三	二	一	日	月	艦		
三	二	一	日	月	艦	南	(一) 麾下艦船ノ行動 (第二潜水部隊)
三	二	一	日	月	艦	方	第七潜水隊
三	二	一	日	月	艦	指	部
三	二	一	日	月	艦	揮	隊
三	二	一	日	月	艦	二	第八潜水隊
三	二	一	日	月	艦	離	入
三	二	一	日	月	艦	ル	記
三	二	一	日	月	艦		事

